

第30回 全国豊かな海づくり大会 ぎふ長良川大会開催記念  
市制60周年（合併5周年）記念

企画展 『あゆみ』

「《日南市文化センター陶壁・結ぶ》下図」

墨による抽象作品で有名な篠田桃紅ですが、その主要な仕事の一つに、壁画やレリーフなど、建築にかかわる作品の制作があります。

図版は、宮崎県にある日南市文化センターのホワイエ（ロビー）のためにつくられた陶壁《結ぶ》の下図として描かれたものです。実際の陶壁作品《結ぶ》は陶板を使ったレリーフのようなかたちですが、下図の段階では、画面全体が刷毛の線を組み合わせた大胆な「面」によって構成され、その一筆一筆の勢いが、この後に制作される陶壁作品への意気込みを伝えています。この作品がつけられた1960年



図版掲載「《日南市文化センター陶壁・結ぶ》下図」1961年 和紙、墨（一部ろうけつ技法）

- 企画展会期…6月27日(日)まで
- 入館料…高校生以上300円、中学生以下無料
- 休館日…月曜日(休日を除く)、  
祝日の翌日(土・日・休日を除く)、  
6月12日(土)・13日(日)
- 開館時間…午前9時～午後4時30分
- 照会先…篠田桃紅美術空間  
(市役所7階) ☎23-7756

代、桃紅にはこのような建築空間の一部となる大作の仕事が多くなります。建築にかかわる仕事は、桃紅に紙と墨に限らない新しい素材での表現を教えました。またこの時期、桃紅は作品発表を主に海外で行うようにもなっており、作家としての視野の広がりを感じさせます。

今回の企画展では、岐阜現代美術財団の初期から現在に至る桃紅コレクションの中から、これまでの国内外の個展に出品した作品、また建築にかかわる仕事に関連する作品などを展示し、桃紅のあゆみを紹介しています。

ひとひと  
女と男

ともに自分らしく生きよう vol. 70

「夫婦の役割分担」

男女共同参画社会

日本は、国際的にも極めて性別役割分業の意識が強いことで知られています。男女共同参画の学習や資料の調査などを行うと、必ず出てくる言葉があります。それは、「夫婦の役割分担」あるいは「男女の役割分担」という言葉です。

また、男女共同参画に関する県民意識調査によれば、女性が家事・育児・介護にかかわる時間については、平日「1～3時間」が28.6%、「3～5時間」が22.4%となっていますが、男性が家事・育児・介護にかかわる時間については、「まったくしない」が29.5%、「30分未満」が29.3%という結果になっています。

男性は、自分なりに、家族のために頑張っているつもりなのですが、家族のために頑張るのなら、子育てにもっと興味を持つべきなのです。なぜか、「子育てはすべて妻まかせ」という男性が多いのが実情なのです。特に、共働きの夫婦の場合は、妻の方が何倍も大変であり、夫が思い切って家事の負担を引き受けて、ようやく平等性が確保できるのです。

別の調査によれば、結婚相手の家事能力について、20代の女性の半数近くが「気にした」と回答しています。この結果からも、結婚前の男性にとって、家事能力の有無が結婚の決め手になりそうです。さらに、妻も仕事を持っていた場合、夫がそれまでどれくらい家事を担当したかによって、老年期の運命が決まってくると言われています。女性が望んでいる男性像というのは、「子育てに協力的で、話し合いができる、優しく、家族を本当に大切にしてくれる」方なのだと思います。義務感からではなく、心底良好で成熟した夫婦関係を作っていきましょう。



さんかくサポーター<J>

<照会先> さんかくサポーター事務局 (まちづくり推進課内) ☎23-6831